

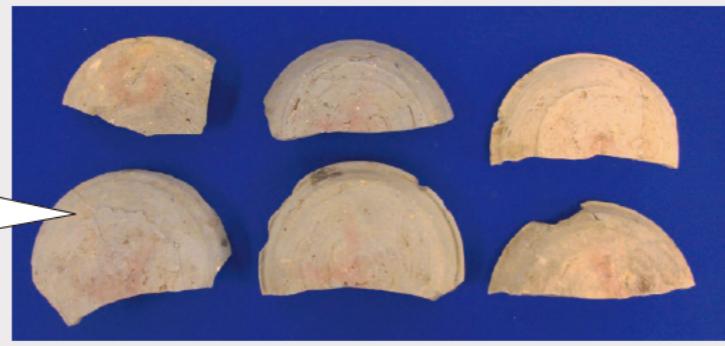
## 主な出土遺物



⑫ 弥生時代の石斧（左奥）・壺



⑪ 縄文時代の石匙（左）・石鍤（右）



⑬ 古墳時代の紡錘車（糸を紡ぐ道具の一部）

⑭ 飛鳥時代の須恵器（赤い×や○印が描かれています）

## 第12次調査の成果

**縄文時代** 縄文時代早期の煙道付炉穴はありませんでしたが、食べ物を蒸すのに使われたと考えられる集石炉が1基ありました。ドングリを貯蔵するために使われた袋状土坑2基は、中期に作られた可能性があります。竪穴住居2棟からは後期の土器が出土し、周辺からは同時期の土坑や、石匙・石鍤（写真⑪）が見つかり、縄文時代後期の集落があったことがわかりました。

**弥生時代中期**（今から2,000年前） 竪穴住居が2棟、土坑が1基みつかりました。竪穴住居の近くからは近接棟持柱建物が見つかり、時期は弥生時代中期から後期の可能性があります。

**弥生時代後期**（今から1,800年前） 竪穴住居が7棟みつかりました。中野山遺跡のすぐ西側にある北山城跡の平成24年度調査では同じ時期の竪穴住居が見つかっており、第12次調査区から北山城跡にかけての範囲に、この時期の集落が広がっていたことがわかりました。

**古墳時代後期**（今から1,400年前） 竪穴住居3棟、石製の紡錘車（写真⑬）が出土しました。

**飛鳥～奈良時代**（今から1,400～1,300年前） 竪穴住居30棟、掘立柱建物19棟、溝・土坑と多数の柱穴がみつかりました。竪穴住居や土坑からは、鐵滓（鉄加工時に出る屑）や輪羽口、赤い「×」印が書かれた須恵器（写真⑭）などが出土しました。今回の調査で鍛冶関連遺物が出土したことによって、今までの調査でわかつてきただ中野山遺跡と鍛冶集団との関係性がより一層深くなり、また一步、古代「大金郷」に近づくことができました。

中野山遺跡第12次発掘調査 現地説明会資料（新名神高速道路発掘調査ニュース「新あさけのいにしへ No.14」）

三重県埋蔵文化財センター 〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503

TEL: 0596-52-1732 / FAX: 0596-52-7035 <http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/maibun/>

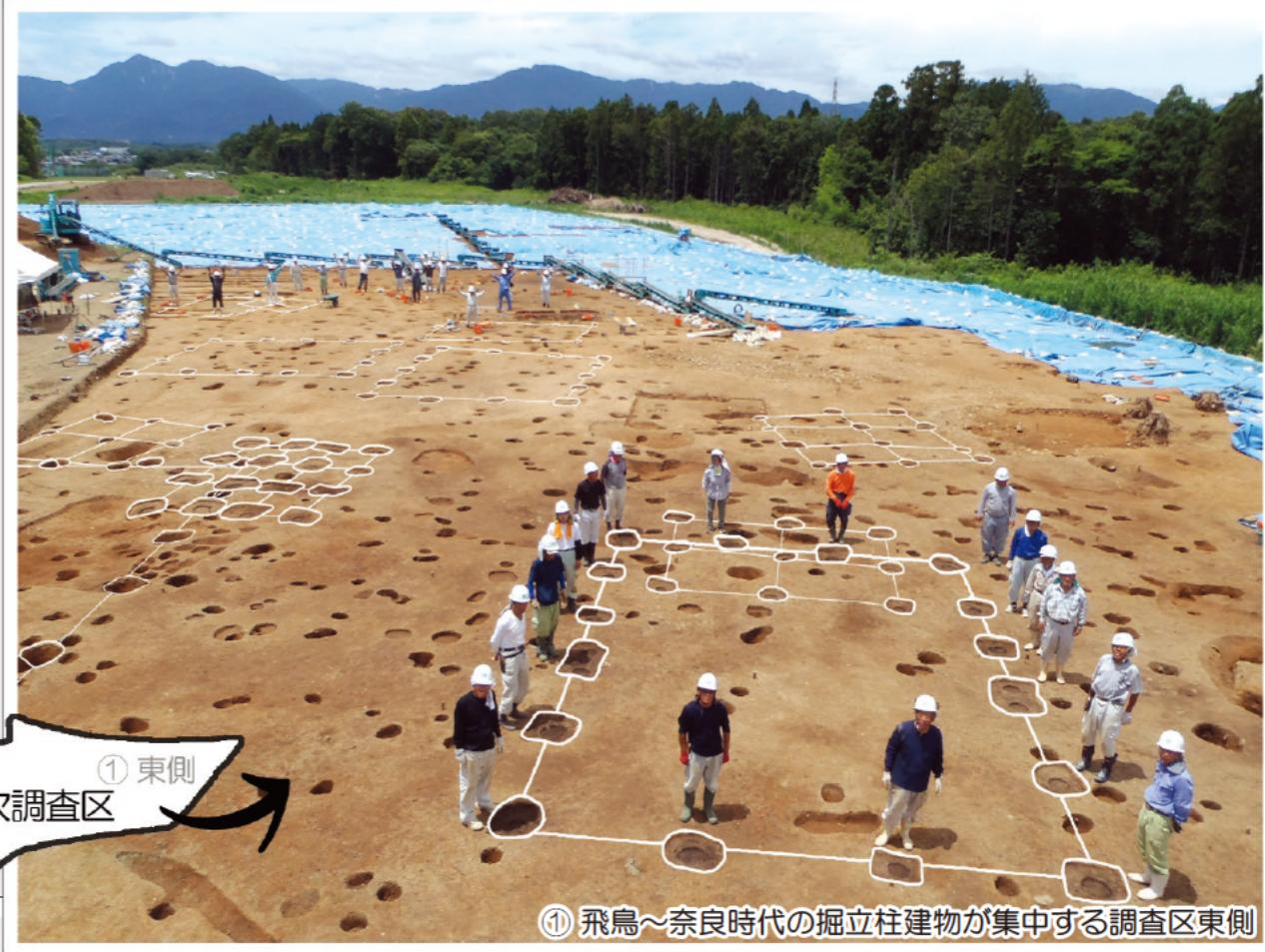
四日市整理所 〒512-8064 三重県四日市市伊坂町126-1

TEL: 059-363-3195 / FAX: 059-363-3196

新名神高速道路建設事業に伴う

# 中野山遺跡

第12次発掘調査 現地説明会資料



2013年10月5日  
三重県埋蔵文化財センター

2013年10月5日



中野山遺跡第12次発掘調査区の周囲は、西側以外すべて調査が終了しています。今年度も多くの遺構が見つかり、時代や遺構によって丘陵の土地利用に変化があることが明らかになってきました。

古代の建物の分布をみてみると、掘立柱建物は第12次調査区東側～第3次調査区付近に密集しています。一方、個人住宅と考えられる縫穴住居は調査区西側にいくつも並んでおり、小さな谷を挟んで東と西で土地の使い分けがなされていたことがわかります。また、縫穴住居が集中するエリアでは、縄文時代後期、弥生時代中期～後期、古墳時代後期、飛鳥時代といった複数の時代の縫穴住居が見つかっていることから、生活を営むのに適した立地であったことがうかがえます。

